

第28回日本未病学会学術総会を終えて

第28回日本未病学会学術総会

会長 勝谷 友宏

(勝谷医院 院長／

大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝子治療学 招聘教授)



2021年11月20日、21日の2日間、黄色に色づいた銀杏が見事な御堂筋に面した御堂会館で行われた第28回日本未病学会学術総会には、会場およびWEB合わせて330名を超える先生にご参加いただき、盛会裡に終えることができました。ご参加いただきました会員の先生には心より御礼申し上げます。

本学術総会では、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の最前線で、関西国際空港に隣接したりんくう総合医療センターの倭先生に、武漢での報告から第5波に至るまで、その舞台裏と身体を張った専門家の取り組みの一部始終を、最新文献も交えながら詳細に解説していただきました。教育講演では、武田雅俊先生よりコロナ禍におけるメンタルヘルスと最近話題のアルツハイマー病治療薬の開発の現況までを、長岡功先生からはスポーツと未病をテーマにアスリートに対するグルコサミンの効果の検証までを、そして吉田博理事長からは本学会の変遷と今後の取り組みを動脈硬化の話題を中心にご講演いただきました。

シンポジウム1では薬剤師会の企画で「パラダイムシフトとこれからの薬剤師の活躍」と題してCIPPS、健康サポート薬局、検体測定事業、機能的食品、セルフケア支援など最新の話題を、シンポジウム2では若手企画として「ポストコロナ時代の未病対策」について食品、脂肪代謝、免疫、メンタルヘルスの立場から新しい発想をお示しいただきました。シンポジウム3は「動脈硬化ガイドライン：脂質の評価と栄養」をテーマに日本動脈硬化学会の重鎮の先生方を中心に、ガイドラインから食事指導まで詳細な内容を、シンポジウム4では「メタボ対策とフレイル予防、連続か単独か」という旬の話題を肥満や老年医学で我が国を代表する先生方にご議論いただき、シンポジウム5では「コロナ関連検査の総論・アフターコロナでチェックすべき検査」と題してCOVID-19関連の最新の話題を後遺症まで含めて取り上げていただきました。

また新しい試みとして、日本医師会の産業医講習会、健康スポーツ医講習会も企画し、木戸口公一先生、増田大作先生、石井好二郎先生にご講演いただき、単位習得を目指す多くの医師にご参加いただきました。ランチョンセミナーでは、武田朱公先生の認知症の未病を捉えるアイトラッキングという最新の検査の紹介、生活習慣病で最も重要な高血圧と未病の関連について大阪大学の神出計先生と日本高血圧学会理事長の楽木宏実先生より詳細に解説していただいたほか、機能的食品の制度の仕掛け人でもある森下龍一先生から今話題の5-アミノレブリン酸 (5-ALA) の未病領域での活用についても紹介していただきました。さらに、アフターヌーンセミナーとして日本抗加齢医学会との共催企画を行い、理事長の山田秀和先生より学会の紹介と老化疾患の最前線の研究を、副理事長の森下先生からは大阪万博の開催概要という夢あふれる内容をご講演いただきました。

学会のメインである一般口演では多くの先生にご来場をいただき、久しぶりに対面でのディスカッションを活発に行えたことが最大の収穫でもありました。また従来のポスター発表が3密リスクとなることを考慮し、ショートプレゼンテーションという新しい試みも実施いたしました。演者や座長の先生方には初めての試みということでご負担をおかけしましたが、コアスライドを中心に研究のエッセンスを短時間で濃密にご議論いただけたものと確信しております。大変レベルの高い発表が相次ぎましたが、厳正な審査の結果、最優秀演題賞は炭竈優太先生 (名古屋学院大学) に、優秀演題賞は矢澤彩香先生 (大阪府立大学)、永田千晶先生 (岡山大学) に決定し、閉会式にて贈呈式を行いました。受賞の先生方、誠にありがとうございます。

さて、会長が市井の開業医ということもあり、準備において行き届かぬ点多々あったことを深くお詫び申し上げます。しかしそのような中でも、何から何までご支援を賜りましたりんくう総合医療センターの増田大作先生、花田浩之先生に深謝申し上げますとともに、コロナ禍で先の見えない中で献身的にサポートいただいたプラスエス・アカデミーの吉田さん、藤川さん、スタッフの皆さん、日本未病学会の根岸さんに心より御礼申し上げます。

末筆となりましたが、会員の皆様のご健勝と、本学会の益々の隆盛を祈念し、私からの御礼のご挨拶とさせていただきます。本当に有難うございました。